

## 第 2 回 発 電 所 視 察

日 時	12月14日(日) 13:10～16:40	
参 加 者	委員	新野、川口、小山、佐藤、柴野、高橋、武本、内藤、中沢、 牧、丸山、渡辺(五)、渡辺(洋) 計 13名
	行政	柏崎市 : 品田部長
	事務局	柏崎市 : 布施課長代理、名塚主任 センター : 鴨下事務局長
	東電	篠原副所長、川俣部長、菅沼室長、江橋副室長、室星GM、 中野GM、志村GM、白木GM、村田、小熊、木戸、 原子炉G、放射線管理G

### 視察場所

- ・ 1号機原子炉建屋
- ・ ドライウェル
- ・ サプレッションチェンバー
- ・ 大物搬入口
- ・ 廃棄物集積所

### 質疑応答

#### 品田部長

現場を見ると頭で考えるのとは違うなという気がします。せっかくの機会ですので、ご質問、感想でもけっこうですので、1人1回ずつくらいご発言いただければありがたいと思います。

#### 柴野委員

「百聞は一見に如かず」ということで、現場を見させていただいて非常に参考になった。工具の管理、員数管理ということで現場を見せていただいたが、管理の方法というのはよくわかったが、やるのは人間なわけで。管理というよりは人間の教育というか...協力会社に対して管理というと、非常に締め付けという意味合いが強い。やはりそれ以前に、本人からの申告がしやすい雰囲気づくりと言うか、管理管理という強い締め付けではなく、人間教育という少しおおげさだが、そんな風にしていていただきたい。

#### 川口委員

ベント管を見せてもらって、養生していなければ物が落ちるのは当たり前だなという感じがした。やはり物が落ちるということを前提にして考えてもらいたい。落下物があつたとしても、それをチェックし、運転前にきちんと処理するような仕組みにしていっていただきたい。申告する仕組みときちんと処理する仕組みをやっていただきたい。

高橋委員

産廃（廃棄物）の件だが、今現在1万本くらいドラム缶で保管してあるとのこと。西山町での説明会の時、アメリカあたりの原子炉の寿命が当初30年くらいであったのが、今は60年くらいに伸びていると。そうすると、寿命が延びればそれだけ産廃も多く出るということで、この先どうなるのかという思いがある。今日見た限りでは、それほど多いとは思わなかったが、これから何十年先というのは、どういう処理の仕方をするのかということを感じた。

それから、ある人が原子力発電所の下請けの作業員の訓練所を作ろうという運動をしたが、だめになったという話を聞いた。

なんとと言っても人間の気持ちが大変なんだと思うと同時に、ヒューマンエラーをいかにして減らしていくかという部分が難しいところではないかと感じた。

武本委員

管理区域からの持ち出しの実演までしてもらって、全数検査というルールで今日も実施していたが、期間も限られている中、本当にそんなことができるのか心配な感じがした。ルールではそういうことになっているようだが、工具が持ち出されているという話は柏崎じゃないが言われている。今日の説明で、ルールがどうなっているかということにはわかったが、それが本当に大丈夫なのかをどうしたら確認できるのか心配になった。

今まで物品の管理というのは、入ったものと出たものを管理しているから、どこかへいくことはないという話だったのが、今回様々なものが出てきたというのが異物問題の一側面。そうなったときに本当に管理がされているのかという疑問に対して、どのように納得したらいいのか釈然としない。

福島なんかに比べて、汚染物（廃棄物）の発生量が少ないと聞いているが、どうなのか。最初の頃と比較して増えているのか、減っているのか。

中沢委員

資材とか工具の搬入搬出の模擬作業を見させてもらった。その中で、工具の汚染の確認作業なんかは、非常に丁寧にやられている。あれだけ細かく確認をする必要があるのか、ちょっと疑問を持った。それと同時に、非常に莫大な時間と工数がかかると思うのだが、もう少し簡単にやれないものか。非常に大変だなという印象。測定する基準というか何ミリおきとかいう何センチおきとかというものが、設けられているものだと思うが、そこら辺を聞きたい。

東電

時間がかかるという部分はしょうがないことで。基本的には放射線がどこにあるかというのは、目で見てわかりませんので、全部見ていくしかない。見て待っているほうは、時間がかかるので辛いのだが、それは決まりなのでそうしないと計れない。

非常に時間がかかるが、本当にできるのかというご心配だが、それはルールなので今日見ていただいた通りです。ですので、多いときには人も増やしてやっている。例えば多いときは20人くらいで機会をもってやっている。

中沢委員

大きな機材を運搬する際、トラックなどで来た場合、入り口で運転手が交代するとのことだが本当なのか。

東電

交代します。

品田部長

本当にやっているのかという意見もあるようだが、やっているということであれば我々としても信じたい。

東電

各協力企業も予定があるので、かちあわないように放射線管理室に予定表をおいて、各社からいつこれだけの規模で搬出できますかということ連絡をもらっておく。できるだけ、搬出が均等になるようにしている。

武本委員

ピーク時、20人からの人数で機械を使ってやるとのことだが、それだけで7号機分とかの対応ができるくらいの仕事なのか。

東電

対応できます。例えば、今非常にかちあってまして、夜中にやったりしている。夜中にやるような場合は東京電力の社員がやっている。

渡辺（五）委員

感想として、作業するところは極めて狭いところでやっているという感じがした。被ばくなど、大変な作業環境であることがわかった。そこで仕事をするにあたって、最終的には作業員の気持ちの問題で、安全に対する意識を維持できるかどうか、維持してもらえるかどうかが大変な気がした。

新野委員

ベント管の入口などは、本当に見てみなければわからないものだなと思ったのだが、あそこならやむなしという気持ちにもなるくらい、非常に条件の悪いところだなと思った。ここで仕事をされる方というのは、東京電力の正社員でない方のほうが多いのだろうなと。検査も非常に仕事は単純だが、辛い仕事だなというふうに思った。

私が長く同じ仕事をしたければ、自分で改善できればいろんなふうに合理化したり、狭ければ広くしたりとか、いろいろ考えるとは思いますが、下請けとか孫請けの方というのは、そういう立場ではないわけで、同じ空間でいろんな立場の段階の方がいて、同じ心持ちで同じ目的に向かっていくというのは、非常にそれこそ至難の業のような感じがする。もう少し合理化というか、改善ができないか、となると投資がいるんでしょうが。やはり単純作業とか、そういう過酷な部分には、発注先である東京電力さんの資本や能力を使って、下請けさんや孫請けの方達の環境までも手をつくしていただければ、住民とすれば少しは安心かなと思える。

佐藤委員

再循環ポンプの配管の工事をしたところを見たんですが、あれを見ると原発の1世代ではああいうことが起こらないということが、前提だったのではないかと。とにかく狭い。あそこで補修作業をするなんていうのは、アクロバットの思えるくらい、作業環境が悪い。そういうものをも運転するとすれば、維持基準しかないのかなと、あみだされたのかなと。率直な気持ちとしてはそう思って見せて貰った。

1号機以降、多少広くなったと言えども、作業環境が大幅に改善されるというほど、改善されているような広さとも思えないから、今後またこういうことが起こるとすれば、大変だなと。運

転して10年か20年でこういうことが起こるとすれば、40年運転するとしても、またこういう問題が起こる可能性だってあるのかなというような感じをもった。

牧委員

現場を見せていただき、圧倒されて頭がパニック状態です。現場を思い浮かべながら調査報告と防止対策をもう一度読み返して考えさせていただかないと、皆さんに申し訳ないなという気持ちでいます。

丸山委員

マニュアルを作っても最後は人の問題であり、守られる体制づくりが大事かと思う。

渡辺（洋）委員

ドラム缶に詰めた廃棄物は全て六ヶ所村に搬出されるのか。多少、他への処理というのは考えているのかいないのか。

小山委員

改めて1号機の作業エリア（D/W）の狭さを痛感した。グレーチングの上での作業なので、むしろゴミ（落下物）も少ないくらいかなという感じをもった。起動前にプール内を点検することなので、安心できると感じた。

内藤委員

リケンでは発注元のトヨタから「現場作業員の行動を変えよ」又は、「企業文化も変えよ」とまて言われているようだ。また、トヨタから「宣教師」的な人間が送り込まれ、現場作業員に色々質問し、品質チェックを行っているとのこと。そういう面で、多重な請負構造の発電所では、もっと厳しめでよいのではないか。

定検短縮もある中、サーベイも細かくやっていたが、地元経済界としては、安全管理にはある程度時間（日数）をかけることが必要だと思う。